

各方面の専門家による
ビジネスに役立つエッセンス

写真でもっと伝える、 もっとよくなる

『写真のチカラ』で

素晴らしい価値が伝わる



伝える事も商品の内 セールスポイントの見える化

強力な伝達手段としての“写真”

モノや情報が溢れた現代、私たちは何を基準に商品やサービスを購入しているのでしょうか。

「高品質」・「高機能」・「便利」・「おいしい」などのセールスポイントでしょうか？それらは一体どんな形で伝えられているのでしょうか？

「言葉」のみでの伝達は、受け取る側に「想像」という、作業を強いる事になります。情報に溢れた現代社会では、これは親切的な伝え方とは言えません。

極端な言い方をすると「後は想像して下さい！」という態度を取っているとも受け取られかねません。

では適切な伝え方とは何でしょうか？それはセールスポイントの「見える化」です。

例えば、食品分野などにおいて、類似品の多い中でも、支持される商品があります。

選ばれる理由は「おいしそう！」「食べ方、使い方」「ブランドの世界観」「生産背景や物語」といったセールスポイントが、しっかりと「見える化」され、お客様に伝わっているからです。

前号では、商品やサービスの情報伝達に「写真」があるか・無いか、また、たとえ写真があっても、写真から受けた「印象」が、文字や言葉以上に、商品やサービスを提供する企業への印象にまで影響するという事を、事例を使って説明しました。

今回は、ビジネスに写真を活用する際に、どのような心づもりで、事前に何を決めておくか、どう活用するかといったことについて説明したいと思います。

商品のセールスポイントが伝わる写真を撮影する為には、丁寧な伝え方・見せ方「撮影コンセプト」の明確化が重要です。

例えば、私が撮影時に、必ず確認するのは、

「この商品のターゲットは？」

「写真で何を伝えたいですか？」

「どんな媒体に活用しますか？」

などです。

写真は商品の魅力、セールスポイントをお客様に伝える為の「道具」です。

カメラマンのセンスに任せるのではなく、商品開発の意図や商品の特徴など、目的を共有し撮影することが、「伝わる写真」の第一歩となるのです。

A



B



PR戦略の軸となる“伝わる写真”

一つの写真が多くの伝達ツールに

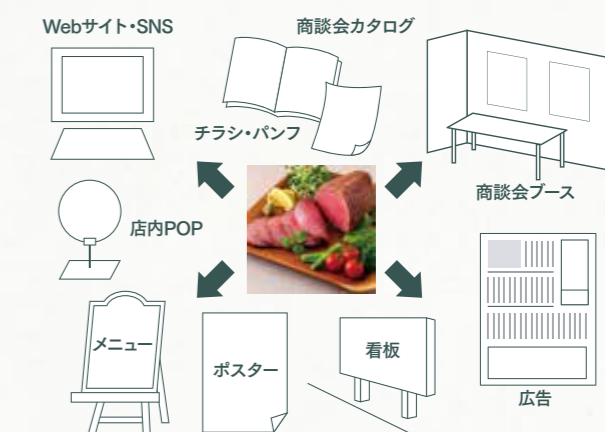
写真Aは“秋田牛ローストビーフ”です。どのようなパッケージ仕様かは分かりますが、セールスポイントの核である「美味しい！」という点や購買行動を後押しする「食べ方」や「ブランドの世界観」などはこの写真だけでは伝わってきません。

次に食べるシーンを想定したイメージ写真Bをご覧ください。商品写真だけよりも確実に「美味しさ」を感じさせる事が出来ています。

例えば、仕様が分かる写真A、美味しさを伝える写真Bを組み合わせるだけで、Cの様に仕様と魅力が同時に伝わる販促ツールを制作することが出来ます。デジタルデータとして写真が扱われる今日、写真の持つ力、その応用性の高さは「伝える」という行為の中で重要度を増しています。

また、撮影コンセプトを明確にした“伝わる写真”を意識することで、PRツールに統一感が生まれ、商品イメージのブレを抑える事が出来、ブランドとしての認知度も高くなっていきます。

写真は様々な販促ツールに活用される。



価値が“伝わる写真”

秋田の素晴らしい価値は足元にある

秋田県には、国内外に誇るべき商品やサービス、技術、観光、農林産業などがたくさんあります。それらを活かす為にはその「価値」を丁寧に伝え、情報発信していくことが、これまで以上に必要になってくると私は考えています。

その情報発信に欠かせないツールのひとつが、『写真のチカラ』です。みなさんの会社案内や商品パンフレット、ホームページに、撮影コンセプトを明確にした“伝わる写真”を活用し、販路拡大や売上増加のビジネスチャンスを生み出しましょう。“伝わる写真”は、“未来を切り拓く道具”です。

C

『生い立ちに、うまさあり！』

秋田県は、「米の国秋田」
現在、肉用牛の生産者や関係者で、
この特徴を活かし、
「米」をキーワードとした
新たなブランド牛作りを
取り組んでいます。

A123-987(AK-1)
秋田牛ローストビーフ
0,000円(税込)

【内容量】400g
【ローストビーフサイズ】
【内容量】20g×3袋
【賞味期限】加工日より3か月
【保存方法】冷蔵(10℃以下で保存)

秋田牛のもも肉を使用し、熟成の過程をブランドした
スパイスを表面に塗り込み、オーブンで焼きます。
秋田牛本来の旨味を活かした肉質の一品です。

イメージ



R-room 鈴木電典写真室

www.r-room-photo.com

代表・フォトグラファー

鈴木 電典

Ryusuke Suzuki

秋田カメラマン R-room 検索

【略歴】

秋田県生まれ。秋田公立美術工芸短期大学産業デザイン学科卒業。お客様との事前ヒアリングを大切にしながら課題を引き出し、撮影内容や写真の活用方法などを共に考え、提案する写真を得意とする。企業や商品・サービスの「価値が伝わる写真」と「心を動かす写真のチカラ」を信じて日々撮影中。

【撮影事例】

2016NAMAHAGEダリア 広告ポスター
秋田県広報誌「あきたびじょん」表紙撮影
県内外各種媒体、飲食店メニュー、会社案内など